

雨壺の技法で創る、四季を映す水の床

雨壺 あまつぼ

「雨壺」は、自然の移ろいを静かに映し出す水盤として機能します。雨が降ると波紋が広がり、風が吹けば水面が揺れ、落葉や花びらが季節の変化を描き出します。

この設計では、「水」と「時間」の関係性を参考に、水面をキャンバスとして、四季の移ろいや気象の変化を繊細に映し出す場を創出します。静かに湛えられた水は、雨音や風のささやきを柔らかく受け止め、訪れる人々に五感を通じた穏やかなひとときを提供します。

また、壺の素材には風化した石を用いることで、長い年月をかけて自然と一体化するような佇まいを目指します。日々変化する水面の表情を眺めながら、静寂の中に宿る「和」の美を感じられる空間をつくり出します。



春

夏

秋

冬



壺に浮く桜の葉
水面に映る桜の木



梅雨の激しい雨が音を
奏で、夏の到来を知らせる



水面に映る紅葉
壺に散る落ち葉



雪が積る壺
凍る水面

